

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700581		
法人名	NPO法人豊心会		
事業所名	グループホームすずらん日向 II		
所在地	福島県須賀川市日向町17番地		
自己評価作成日	平成30年6月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの生活リズムを大切に、入居者さんから出た要望や希望については、すぐに対応できるように心がけている。また、本人の言葉を第一にケアを考えていくようにし、本人に良いものを選択していただきながら生活を送って頂けるように、申し送りや職員会議などで話し合っています。地域との交流にも力を入れ、10年続いている小学校との交流会や西川区の皆さんの交流にも地域包括センターの皆さん等のご協力をいただけるような関係が広まってきています。また、外出の支援では遠いから行けないではなく、ご家族様のご協力もいただきながら、本人の希望に添った外出が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、事業所の理念をたて、ユニットごとの目標も会議で立てる事になっている。業務日誌等に載せ共有出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内での地域交流会の開催があり、前年に続き天候が悪く室内での開催になるが、区の方々の協力もあり楽しく行う事が出来た。大きな催しでの交流であり日常的にはあまり多くの交流を持ってはいない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年続けている近隣の小学校との交流会があり、その都度、認知症についての講義を開く等している。事業所に来る時には、小学生が認知症の方と関わりをもつ為に考えてから来てくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	日ごろの活動の様子や、現在取り組んでいる事をプロジェクターで映し伝えるようにしている。見て終わった後に皆さんで話しをし意見をもらえるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取ったり、話す機会があった際には、事業所についてや取り組みを伝えられるようにし必要に応じた協力関係を築けるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全事業所の職員が対象に法人の研修があり、倫理委員会より身体拘束についての講義を聞く時間を設けている。また、日常の事柄についてを職員か話せる機会を作るように心掛け身体拘束をしないケアを考えてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士での声を掛け合い、些細な事についても話をするようにしている。会議の場等でも話をする機会を設けられるようにと考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所に制度を利用している方が居ない事もあり、話にあがる事が少なく、制度全体について理解していない所もある。今後、制度について勉強する機会を作るようにしていく事が必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について、見学の段階から積極的に疑問、不安を聞くように努め事業所のパンフレットや資料を準備し説明を行い理解、納得をしていただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催やサービス満足度アンケート調査を実施し、御意見に再度回答を載せ返信する等している。日頃お会いする事の出来る御家族からの要望等も業務日誌に載せる等し共有し返答、実現出来るように心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議、職員会議などで意向を聞き反映出来るように努めている。また年1回理事長、副理事長との面談を行い職員の意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者からは、年一回の面談にて職員と対話をする機会を設ける等し、管理者等からも職員の労働状況等を伝えられるようにしている。処遇改善の制度の利用での給与の改善や資格取得へ向けた研修等を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所の同じ経験年数の職員に合わせた内部研修を開催している。技術面等は職場で働きながら確認出来るようにしている。法人の各種委員会があり所属し学ぶ機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等に参加や研修生の受け入れ等の機会を作れるようにし、同じ仕事をしている人やこれから行っていこうという人達との話す機会を作り良いと思う事は自施設でも取り入れていけるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入の段階で何度か会う機会をつくり本人の話を聞けるようにし不安などを持たれないように努めている。生活歴や希望を用紙に記入していただき本人や御家族の望む生活を聞き決めていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅の生活で困っていた事やこれからの生活で不安な事は、入居前に確認出来るようにしている。荷物を入れる時等顔を合わせる機会があれば出来るだけ話せるようにし不安や希望を聞けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で生活歴や希望を確認出来るようにしている。その他にも顔を合わせて何か不安や困り事は無いか確認するようにしている。その際に楽しみや趣味についても聞けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関わりの中から、本人の出来る事、出来ない事は何かを考え、記録し共有出来るようにしている。本人の心配な所を支えられるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、電話連絡等でも、話しやすい雰囲気を作れるようにし、家族からも御意見がいただけるように話す機会を大切にしている。一緒に本人を支えていける関係を築いていけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やお店等に続けて通えるように、自宅にいた時のように友人や親せきが来やすいように環境を整える等していけるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん一人ひとりの性格等をふまえ席を考え、言い合いになったり、孤立するような場面が出来ないようにと考えて行動をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、新しいサービス利用先への情報提供や御家族の不安の無いように出来るだけ協力するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや生活の仕方を聞いたり、考えてもらう機会を作り話してもらえようにする。会話や表現が困難であると考えられる場合には、本人の思う事を職員が考えていけるように考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活の様子を聞きまとめ、情報を職員間で共有し、日常生活に活かせるようにしている。他のサービス利用期間の様子も他事業所との連携		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事や出来ない事、心身状態を職員間で共有できるようにしていく為に記録に残し現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の言葉等を基にアセスメントを行い、介護計画を作成していくようにしている。本人の状態が変わった場合には、その都度、状況に合った計画を立てるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録として入力して残り職員間で共有できるようにし実践や介護計画に反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに合わせた対応が出来るよう既存のサービスに捉われないように考える。高校野球の好きな方に対し、あつま球場まで観戦に出かけたり、夕方の祭を見に出かけたりその時々状況に耳を傾けられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住んでいた場所や馴染みの場所、地域の行事等へ出かける等の機会は作っている。その他にも参加できるような資源を活用出来るようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、受診する科など、個々に合わせて対応するようにしている。医療連携機関の中には、24時間連絡を取ってもらえる病院もあり、変化があれば、電話による指示を受けたり、状態によっては、往診をしてもらう事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や経過を報告し指示を受けている。また気になる事についても相談出来るような関係作りをしている。毎週1回の健康チェックの日もありいつでも相談出来るようになっていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療面の依存度が低い場合、なるべく早い退院が出来るように対応している。また本人や家族の意向を踏まえて相談するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、かかりつけ医と話し事業所として出来る事を説明し職員、家族、医師と連携をして取り組むようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や会議での確認などは行っているが実践的な取り組みは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内に災害対策委員会を設置し法人全体での防災への取り組みを行っているが全員が身につけるまでの機会までは設けられていない。訓練等を通して徐々に体験してもらえようと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴の際には本人と話をし同意を得て入居者が嫌な思いをしない様にプライバシーの保護に努めている。また、職員の決めつけにならないように本人の言葉を大切に一緒に考えて行けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見、希望を聞いてから行動に移すようにし、選択できるような状況を作ったり、自己決定のしやすいような言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合が優先にならないようにし本人の希望にペースに合わせられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでもらえるように準備をし本人に選んでもらえるようにすすめるようにしている。鏡を見てもらい、自ら身なりを整えてもらう事も行ってもらえようにとすすめる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べる事だけを食事とせず買い物、仕度を一緒に行い作った実感を感じながら食事が楽しいものになるように行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況や状態を記録等で共有出来るようにし本人にあった摂取量をとれるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態に合わせ必要に応じた口腔ケアを行うようにしている。月に1度協力医療機関から歯科往診があり相談出来るようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子を見ながらトイレをすすめたり本人からの訴えが難しい場合は排泄のリズムに応じて時間を決めすすめるなど出来るだけトイレでの排泄をしてもらえるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通じの無い日が続く事のないように水分をすすめたり歩いたり動く機会を増やしたりして予防できるようにしている。食べ物からも食物繊維の多い物をすすめる等し改善出来るようにと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングに合わせて入浴していただけるようにと考え準備をすすめている。あまりすすんで入浴したいと思われない方にも浴室を季節毎の雰囲気にしてみたり、温泉の入浴剤を使用し興味を持っていただく事でも良いと思ってもらえるように考えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安を抱えている方と話しをする事で安心してもらったり、眠れない方に温かい飲み物をすすめる等して落ち着いていただく事で安心して眠れるようにすすめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や作用についていつでも目を通せるようにファイルに綴じておき薬の変更等があった場合にはその都度確認できるように周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や裁縫、畑仕事や歌等、それぞれが好きなお事を行いやすいように環境を整えられるように考えている。周りの方達も参加しやすいように職員も間に入り一緒に行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は、希望があれば出来るだけ出かけられるようにと考えている。日頃行けないようなばしょであっても希望に添えるようにし、本人の体調を整え、家族等の協力を得ながら出かけられるようにとすすめている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち自ら買い物、支払を出来る範囲でしていただき今までと変わらない生活を感じてもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけてもらう事は、可能であるが、本人からかける事はほとんどない。状況に合わせて職員がかけつなぐ事もある。手紙等も準備しいつでも書けるように準備をしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温が極端に暑かったり寒かったりないようにし季節に合わせて調節するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ等で気に行った場所を持っている方がいらっしゃったりしており気に行った空間を崩す事のないよう配慮するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室には家にあった家具や馴染みの物を置くなど自分の部屋だと感じていただけるようにしている。レイアウトは必要に応じて変更するようにし、安心出来る場所となるように配慮出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを活かし自信を持ち自立した生活が送れるように努めている。トイレや居室等に表示や目印をつけわかりやすくする等の工夫をしている。		